



竹田俊男先生

京都大学名誉教授、老化促進モデルマウス（SAM）研究協議会会長
1931年～2016年（昭和6年～平成28年）

竹田俊男先生を偲んで

竹田俊男前会長が本年1月16日（土）に御逝去されてから、早や5か月が過ぎました。いまだに現実のこととは思えないでおります。

竹田俊男先生はSAM研究協議会が設置された1984年から2015年3月まで31年間本協議会の会長を務められ、SAM系統マウスを用いた老化と老年性疾患の研究ならびに老化促進モデルマウス（SAM）研究協議会を牽引されてこられました。

竹田先生は、それまで理論的には存在が考えられていた老化の促進現象を、SAM系統マウスにより世界に先駆けて現実の生命現象として示されました。1973年に、当時維持されていたAKR/J系統マウスのコロニーの中で、SAM系統マウスの起源となったマウスを偶然見つけられたのですが、竹田先生は単に発見し報告するだけでなく、老化が速く進む形質を系統に固定し、実験病理学の研究に用いる事が出来る近交系マウスとして樹立されました。さらに老化の病理学の立場から様々な老年性疾患のモデル性をSAM系統マウスの中に探索され、本系統が様々な老化依存性病態（senescence-dependent disorders）のモデルになり得ることを示されました。さらに、疾患モデル動物のユーザーの視点を持ってSAMマウス系統のプロバイダーを務めるために、本研究協議会を設立されました。さらに研究機関の間で使用するSAM系統マウスの老化形質を均一にするため、日本SLC（株）に系統の維持と分与を委託されました。毎年、SAM研究協議会研究発表会を開催され、研究者間の情報交換を促し、研究が発展する事を願われました。このように体系立てSAM系統マウスを用いた老化と老年性疾患の研究を育ててこられました。

竹田先生は余人にできない、何人分もの重要な業績を残されましたが、竹田先生が作られたのは研究の出発点であり、私たちSAM研究協議会の会員は、これからもSAM系統マウスならびに、同モデルを用いた老化ならびに老年性疾患の研究を引き継ぎ発展させねばならない、SAM系統マウスを活かすも殺すも私たち次第であることを肝に銘じて研究活動を進めなければならないと考えています。

竹田先生はSAM研究協議会サーキュラー第1号(1997年10月5日発行)の巻頭「研究協議会の新体制発足について」の中で、老化促進モデルマウス(SAM)システムを用いた研究と研究協議会の歩んだ道を振り返り、研究活動が更に飛躍するためのいくつかの課題を上げられています。研究発表会の活性化もその一つでした。竹田先生が書かれた最後の巻頭言は2013年3月25日発行サーキュラー第17号で、「巻頭言 若手研究奨励賞に奮って応募を!」となっています。この中で竹田先生は、特に若い会員の方々の研究発表会への積極的な参加・発表を訴えられています。若い力により、SAM研究協議会の活動が活発になり、SAM研究が発展することを心より願っておられました。

今年の第31回研究発表会は、秋口一郎先生のお世話により、久しぶりにSAMシステムマウスとSAM研究協議会の発祥の地、京都市で7月9日(土曜日)、10日(日曜日)に開催されます。さらに合わせて、SAM研究協議会サテライトシンポジウム「認知症フォーラム京都2016」が開催され、多くの重要な研究が講演されます。是非、非会員の多くの方々にも御参加いただき、討論に参加していただくことを願っております。

2016年6月20日

老化促進モデルマウス(SAM)研究協議会
会長 細川昌則

ご略歴

生年月日:	1931(昭和6)年1月20日	兵庫県生まれ
学歴:	1957(昭和32)年3月 1961(昭和36)年3月	京都大学医学部医学科卒業 京都大学大学院医学研究科修了
職歴:	1962(昭和37)年4月 1966(昭和41)年12月 1968(昭和43)年3月 1968(昭和43)年4月 1972(昭和47)年10月 1983(昭和58)年4月 1987(昭和62)年4月 1988(昭和63)年6月 1994(平成6)年3月	京都大学医学部病理第2講座助手 アメリカ合衆国テキサス大学医学部留学 帰国 京都大学結核胸部疾患研究所病理学部門助教授 長浜日赤病院病理検査科非常勤医師 京都大学結核胸部疾患研究所病理学部門教授 京都大学結核胸部疾患研究所附属感染免疫動物 実験施設長(併任) 京都大学胸部疾患研究所老化生物学分野教授 (改組) 定年退官、京都大学名誉教授

老化促進モデルマウス(SAM)研究協議会

1984(昭和59)~1996(平成8)年 代表幹事

1997(平成9)*~2014(平成26)年 会長

*会員制協議会として再発足

日本基礎老化学会

2002(平成14)年

日本基礎老化学会名誉会員